

公開実用 昭和64-47256

5

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭64-47256

⑮ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月23日

A 47 F 5/08

Z-6850-3B

A 47 B 96/06

M-6578-3B

F 16 B 2/16

C-8714-3J

F 16 G 7/14

A-7523-3J

F 16 G 11/12

B-8814-3J

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 棚受用支持装置

⑯ 実 願 昭62-141696

⑰ 出 願 昭62(1987)9月18日

⑱ 考 案 者 荒 川 秀 夫

東京都杉並区善福寺4丁目15番4号 荒川技研工業株式会
社内

⑲ 出 願 人 荒川技研工業株式会社

東京都杉並区善福寺4丁目15番4号

⑳ 代 理 人 弁理士 薬 師 稔

外2名



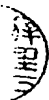
明 細 書

1. 考案の名称 棚受用支持装置

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 棚等の物品 (B) を定着又は載置できる受部材(1) に、ワイヤー又はレールの被装着体 (A) を嵌挿する挿入部(2) と、該挿入部(2) 中の被装着体 (A) を係脱するチャック部材(3) とを有するホルダー(4) を備えると共に、このチャック部材(3) は、内周面にテーバー面部(6) を有する中空孔に嵌装されるスリーブ(7) と、このテーバー面部(6) に当接するボール(8) 又はシューとを持ち、これらを一方向に付勢するバネ(9) とから構成されていると共に、前記ホルダー(4) とスリーブ(7) との一側面に前記挿入部(2) に連通する摺割溝(4₁)(7₁)を全長にわたって、それぞれ設け、該摺割溝(4₁)(7₁)に嵌挿する嵌合片(15)のあるキャップ(16)を前記スリーブ(7) 又はホルダー(4) に着脱自在に備えたことを特徴とする棚受用支持装置。

公開実用 昭和64-47256



(2) 前記スリーブ(7)が、前記摺割溝(7₁)を避けて一対のガイド溝(7₂)(7₂)を備えているものである実用新案登録請求の範囲第1項記載の棚受用支持装置。

(3) 前記スリーブ(7)が、ホルダー(4)にあるテーパ面部(6)に当接するコーン部(7₃)を持ち、一端をホルダー(4)から突出配備し他端にバネ受部を備えたものである実用新案登録請求の範囲第1項又は第2項記載の棚受用支持装置。

(4) 前記ホルダー(4)が、前記バネ(9)の封入用のバネ取付部材(10)を備えたものであって、前記スリーブ(7)に形成したガイド溝(7₂)に嵌入配備されるものである実用新案登録請求の範囲第1～3項のいずれか一つの項記載の棚受用支持装置。

(5) 前記バネ(9)が、前記ホルダー(4)内に収装されたコイルバネであって、スリーブ(7)のコーン部(7₃)を一方向に附勢するようにバネ受けにボール(17)を介在しているものである実用新案登録請求の範囲第1～4項のいずれか一つの項記載の棚受用支持装置。



(6) 前記キャップ(16)が、前記スリーブ(7)に嵌挿できるリング部からなり、被装着体(A)を嵌挿する割溝(16₁)を有し対向位置に前記嵌合片(15)が突設されているものである実用新案登録請求の範囲第1～5項のいずれか一つの項記載の棚受用支持装置。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、棚板、ディスプレイ、パネル、額、ハンガーその他インテリア用構造体を店頭、家庭、展示場などに陳列装備するためレール又は細長いワイヤーなどの被装着体で簡単に任意の位置に位置決めが可能な棚受用支持装置に関するものである。

〔従来技術〕

一般に、室内或いは陳列窓等に、物品を載せるための棚を設ける場合、洋服などを吊して陳列する場合などにおいて、陳列効果や、スペース効果をあげるため、また物品が変わった場合の配置変更などのために、棚板の高さや、洋服などの物品



を吊す位置、高さなどを任意に選ぶことが容易であることが要求される。

(考案が解決しようとする問題点)

この金具には従来ではフックや穴あきブラケット、取付ロッド、或いは取付螺杆が用いられるが段階的な変更が多く無段階に移動調節することができない不便があった。

このため最近ではチャック部材を備えたホルダーの受具でワイヤーの被装着体に摺動できるようにしたことが試みられているが、ワイヤーに装着した受具を取付け、取外しするのにワイヤー末端より挿入、挿脱しなければならず、その脱着操作や修正も面倒であるばかりか取扱上きわめて不便でしかも展示効果をあげるため斜めに柵板やパネルを配備する場合には使用できないなどの問題があった。

本考案は、この従来の問題点を解決し取扱い容易で柵などの物品設定並びに位置調整も簡単に可能であり、傾斜状態でも配備できかつ交換作業も楽にでき、かつ定着性を向上させて安全性を高め



る棚受用支持装置を構成簡単で安価に提供することを目的としたものである。

〔問題点を解決するための手段〕

本考案は、棚等の物品 B を定着又は載置できる受部材 1 に、ワイヤー又はレールの被装着体 A を嵌挿する挿入部 2 と、該挿入部 2 中の被装着体 A を係脱するチャック部材 3 とを有するホルダー 4 を備えると共に、このチャック部材 3 は、内周面にテーパ面部 6 を有する中空孔に嵌装されるスリーブ 7 と、このテーパ面部 6 に当接するボール 8 又はシューとを持ち、これらを一方向に付勢するバネ 9 とから構成されていると共に、前記ホルダー 4 とスリーブ 7 との一側面に前記挿入部 2 に連通する摺割溝 4₁、7₁ を全長にわたって、それぞれ設け、該摺割溝 4₁、7₁ に嵌挿する嵌合片 15 のあるキャップ 16 を前記スリーブ 7 又はホルダー 4 に着脱自在に備えたことを特徴とする棚受用支持装置である。

〔作 用〕

この支持装置では、物品 B をレール又はワイヤ



一の被装着体 A 上に移動する時はホルダー 4 のチャック部材 3 によって上方向には自由に動くが下方向に移すときにはホルダー 4 から突出したスリーブ 7 を、バネ 9 の復元力に抗して押すとボール 8、8 はフリーの状態となり、その間にレール又はワイヤー上に移動し、適宜位置で押圧をやめるとバネ 9 によりスリーブ 7 は復位してワイヤーはボール 8、8 間に圧接挾持され、柵の物品 B は被装着体 A に固定され、特に摺割溝 4、7 に嵌合片 15 があるので被装着体 A への押えとなってこじれに対して安全に定着維持できる。

〔実施例〕

第 1 図乃至第 6 図の具体例では柵板又はパネルなどの物品 B をレール又はワイヤーの被装着体 A に装着して配備する際にホルダー 4 を介して行われる。この場合柵等の物品 B を定着又は載置できる受部材 1 のあるホルダー 4 に、レールの被装着体 A を嵌挿する挿入部 2 と、該挿入部 2 中の被装着体 A を係脱するチャック部材 3 とを備えると共に、前記チャック部材 3 は、内周面にテーパ面



部 6 を有する中空孔に嵌装されるスリーブ 7 と、
このテーパ―面部 6 に当接するボール 8 又はシュー
ーとを持ち、これらを一方向に付勢するバネ 9 と
から構成されていると共に、前記ホルダー 4 とス
リーブ 7 との一側面に前記挿入部 2 に連通する摺
割溝 4₁、7₁ を全長にわたって、それぞれ設け、
該摺割溝 4₁、7₁ に嵌挿する嵌合片 15 のある
キャップ 16 を前記スリーブ 7 又はホルダー 4 に
着脱自在に備え、また前記受部材 1 としては柵板
の穴に嵌合されたときの抜け止め防止用のフラン
ジ 4₂ を突出したものが用いられるが、受部材 1
が前記ホルダー 4 の一端に突出して備えられバネ
9 を保持する突杆 10₁ のある取付部材 10 を一
対を持っていて柵板を載置できるようにしてある。

なお、前記スリーブ 7 としては、前記テーパ―
面部 6 に当接するコーン部 7₂ を持ち、一端をホ
ルダー 4 より突出配備し、他端にバネ受部を備え
てチャック部材 3 の働きで一方向にスライドでき
るが他方向にはずれないようにロックする機能を
持たせて使用上便利な形態としてある。

公開実用 昭和64-47256



前記スリーブ7は前記摺割溝7₁を避けて一対のガイド溝7₂、7₂を備えているもので、該ガイド溝7₂に嵌装されコイルバネ9をホルダー4に設けたバネ取付部材10で封入し、バネ受けにボール17を介在させてスリーブのコーン部7₃を一方方向に附勢してボール8を互に挟圧するようにし、スリーブ7の動きをよくするようにしてある。

前記ホルダー4のテーバー面部6はボール8がテーバー面部6の小径側の近くにあるときに遠くにあるときよりもボール8、8間の間隔が小なるようにボール8の接離を拘束していて、このボール8、8間の接離により前記ワイヤーとの係止或いは滑動が行われるようになっている。

なお、前記バネ取付部材10は、ネジ部材10₂でホルダー4に固定したものであってホルダー4の内方に嵌挿したスリーブ7のガイド溝7₂に突出させたキー作用を兼ねたものがよい。また前記棚の物品Bは一段に限らず上下二段以上の複数段に配置することがレールへの前記ホルダー4の設



置によって自由に選べる。また挿入部 2 にはレー
ルに代えてワイヤーを挿入することもできる。ま
た前記キャップ 1 6 が、前記スリーブ 7 に嵌挿で
きるリング部からなり、被装着体 A を嵌挿する割
溝 1 6 1 を有し対向位置に前記嵌合片 1 5 が突設
されているもので、被装着体 A に差入れたのちに
嵌合片 1 5 を摺割溝 4 1 , 7 1 に嵌入し、ホルダ
ー 4 に嵌着一体化して被装着体 A への押えとして
こじれ力に対して安全に定着維持できるようにし
てある。

第 7 図及び第 8 図の具体例では前記ホルダー 4
内のスリーブ 7 の下端部に中空筒体を延設したも
のであって、前記受部材 1 に嵌挿支持されている
がよく、被装着体 A への配備を容易化してある。

また、ワイヤーの途中または下端に額やパネル
その他のインテリア組立構造物の吊垂或いは載置
に便利に用いられるものである。

〔考案の効果〕

本考案により、物品を壁面などの取付面に対し
て任意の距離隔たった位置に取り付ける際に設置

の処理が容易にでき、バランスを持って配備でき
且つワンタッチでレール又はワイヤーに着脱でき
るのでその取り付け、取り外し作業が極めて簡易
で迅速にでき作業性を大幅に向上し、互換性も良
好であり、しかも棚板やパネルのこじれに対して
も嵌合片のあるキャップで摺割溝が閉塞されてい
るため、安全な押えとなって定着維持も容易で安
全性を増し位置の調整も広範囲に可能で陳列棚の
張設が適確且つ安全にでき周囲の美徳をも損なわ
ない体裁良好な支持装置にでき、さらに異なる取
付面積構造に対しても広範囲に適用できる堅牢形
態となっているので汎用性にも富むなどの実用上
の効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第1図は正面図、
第2図は平面図、第3図は底面図、第4図は第2
図I-I線における拡大縦断面図、第5図は分離状
態の斜面図、第6図は使用状態の斜面図、第7図
は他の実施例の縦断面図、第8図はその底面図で
ある。

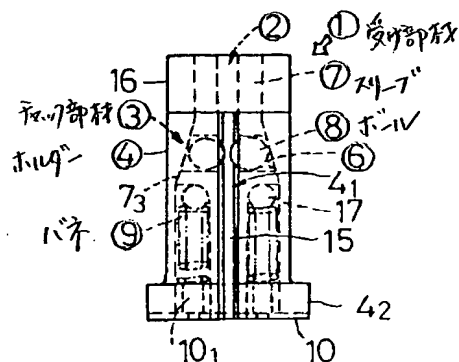


A…被装着体、B…物品、

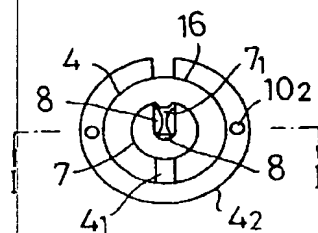
1…受部材、2…挿入部、3…チャック部材、
4…ホルダー、4₁…摺割溝、6…テーバー面部、
7…スリーブ、7₁…摺割溝、7₂…ガイド溝、
7₃…コーン部、8…ボール、9…バネ、10…
バネ取付部材、15…嵌合片、16…キャップ、
16₁…割溝。

実用新案登録出願人	荒川技研工業株式会社
代理人 弁理士	薬 師 稔
代理人 弁理士	依 田 孝 次 郎
代理人 弁理士	高 木 正 行

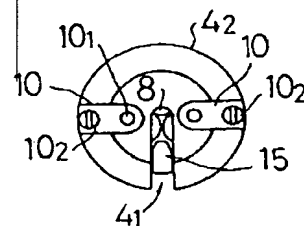
第 1 図



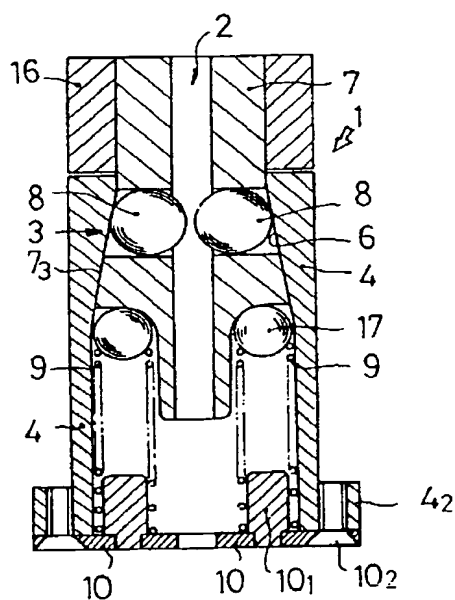
第 2 図



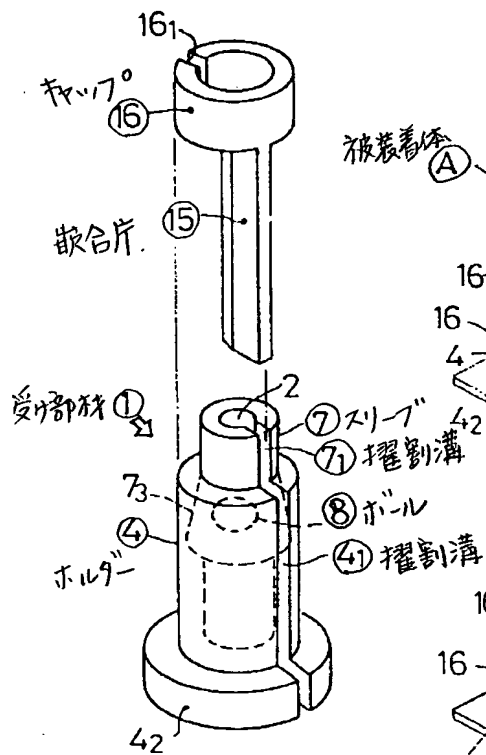
第 3 図



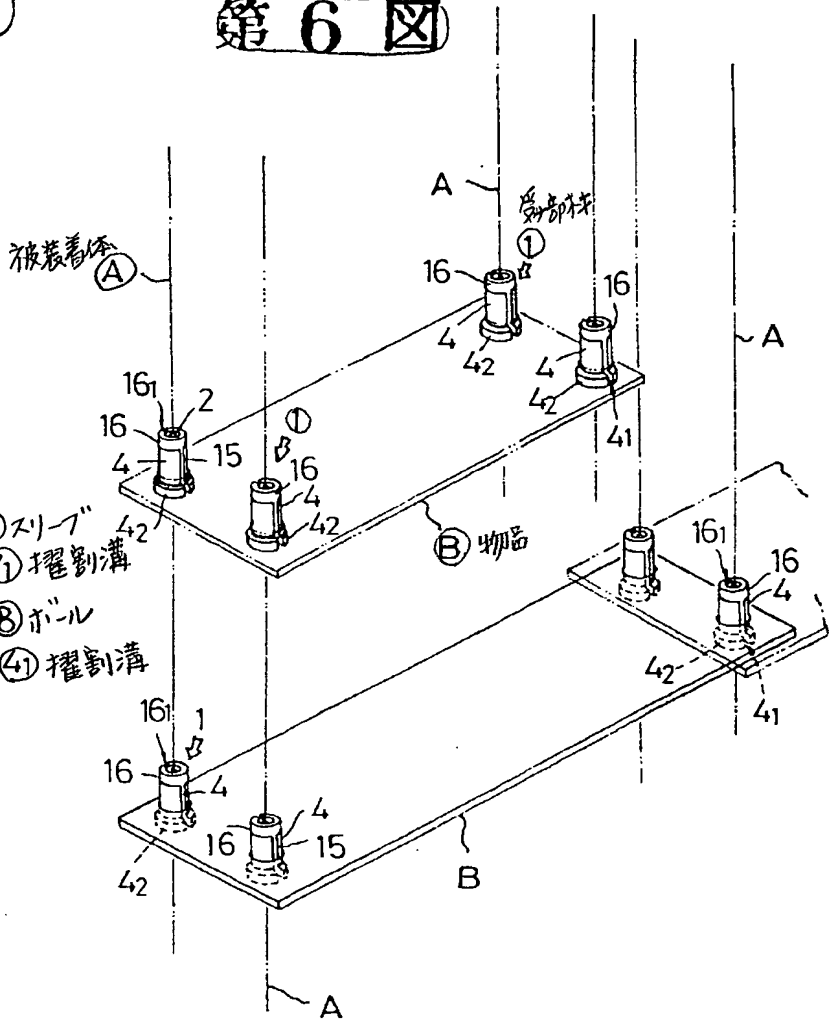
第 4 図



第 5 図

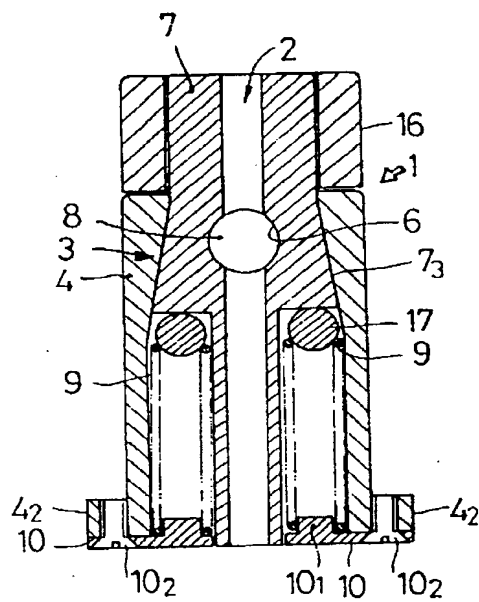


第 6 図

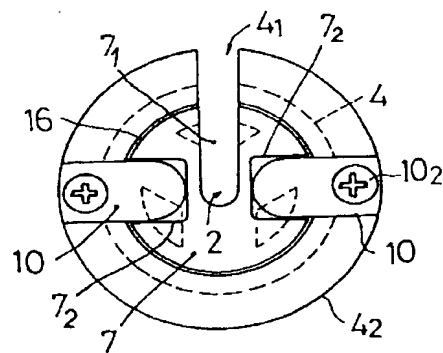


595
59504-47256

第 7 図



第 8 図



596

実用 64-47256